
異世界で魔術士

スエキチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界で魔術士

【Nコード】

N3444BA

【作者名】

スエキチ

【あらすじ】

俺の名は【柊・命】（ひいらぎ・みこと）、死んでしまった俺は神様に頼んで別の世界で第二の人生を歩む事にした。

プロローグ（前書き）

初めて小説を書いてみました。
どうか暖かい眼で見守ってください。

プロローグ

「俺の名は【柊・命】（ひいらぎ・みこと）、どこにでもいるゲーム好きな人間だ」。

そういつて俺は目の前の自称神様に話した。

最初に姿を現したときは、ボーリングの玉ぐらいの光る玉だったが、俺が話しくくしていると身長130cmぐらいのかわいらしい少女に姿を変えていた。

神様曰く俺は死んでしまったらしい。

しかも俺の死はどうやら予定外らしく、このままでは魂は消滅し二度と転生出来なくなるらしい。

「——という分けて、貴方はどうしたい？」

「生き返ることは出来ないのか？」

とりあえず最初に思った事をいつてみた。

「無理ね。私も貴方が死んですぐにやっただけど貴方の居た世界に拒否されたわ。」

「……なんで？」

「認めたくないみたいよ。貴方の居た世界は他の世界に比べると少し頑固だから」

……頑固って……どここの親父だよ

「まあ、候補としては生き返らずにこのまま天界に行くのもあるけど？」

天界か……天国みたいな所かな？

「他には無いのか？」

「そうねえ、魔界には行きたくないでしょ？」

「ああ」

どうやら俺の想像は当たっていたらしい。

「後は別の世界に行くぐらいかな」

「別の世界では生き返れるのか？！だったらそれにしてくれっ！
！！」

「わ、わかったわ。どんな世界がいいの？」

そんなの決まっている。ゲーム好きなら一度は行ってみたいと
想っただろうそれは――

「剣と魔法のファンタジーな世界だっつっ！……！」

俺は握りこぶしを作り、期待に満ちた眼でそう宣言した。

「そ、そう。わ、わかったわ今探すからちょっと待ってて……」

そういいながら神様の眼は焦点が合わなくなっていく。

時間にして10分ぐらいだろう、神様が戻ってきた。

「あつたわよ。取り敢えず先に希望があつたら聞くけど」

そうだなあ……

「比較的に平和な世界がいいかな。それでいて魔物とか明確な敵が居る世界」

「……なんか凄く矛盾してるんだけど……」

そう言いながら、はあ、とため息をつき眼の焦点が合わなくなっていく。

待つこと30分、流石に無茶な注文だったのだろう。先程よりも長い時間かかっていたがようやく戻ってきた。

「……在ったわよ」

少しふらふらになりながらそう応えた。

「それで……貴方の希望は他にはないの？」

「えっ?!まだいいのか」

快復したのはつきりと応えてきた。

「ええ。貴方は本来、あと80年は生きる予定だったから出来る限り希望は聞くわ」

マジか、だったら遠慮なく云おう。

「じゃあ、俺が俺のままその世界に行きたいんだか出来るか」

「……どうゆう意味？」

「神様がいう、別の世界に行くのは、その世界に転生する事だろ？」

「ええそうよ」

「それをせずに、俺の今迄の記憶があつて身体も成長した状態で行きたいんだ」

「それは……出来るけど……あまりオススメしないわよ」

「なんでだ？」

「私達神が力を使えるのは、自分の守護する世界だけなの。つまり貴方が言った方法は別の神にやつてもらうしかないの」

「それが何か問題でもあるのか？」

「……貴方が言った方法に問題があるわけじゃないわ。今の貴方は魂だけの存在なの。つまりその方法は身体を新しく創つくらないといけないの、ここまではいい？」

「ああ」

「つまり新しく創る身体は別の神が好きに創る事になるの」

なにい！？マジか！？

どうする？――

「まあ、どうしてもってゆうならその神に釘を差しとくけど？」

「お願いします」

「はや！……少しは躊躇いなさいよ……」

「確かに姿が変わるのは多少抵抗があるけど、今迄とは違う人生を送るんだからそこは割り切ることにしたよ」

「そう……わかったわ。あとまだ希望は？」

「そうだな……やっぱりファンタジーなんだからアレだろ

「これが最後だ。俺が魔法を使えるようにしてくれ」

「ん、わかったわ」

「……随分簡単そうだな」

「簡単よ。元から魔法がある世界だから難しくわないわ」

「そうか、じゃあもう希望も無いから別の世界に送ってくれ」

「わかったわ。じゃあ始めるわよ」

そう言いながら神様が俺に向かって手を伸ばしてきた。

その瞬間、俺の身体が淡い光に包まれ、徐々に意識が無くなっていった。

これが俺のこの世界での最後の記憶となった。

ブログ（後書き）

更新は不定期になりますが、二週間に一回は投稿したいと思います。
出来なかったらご免なさい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3444ba/>

異世界で魔術士

2012年1月8日23時52分発行